

国字速記講座

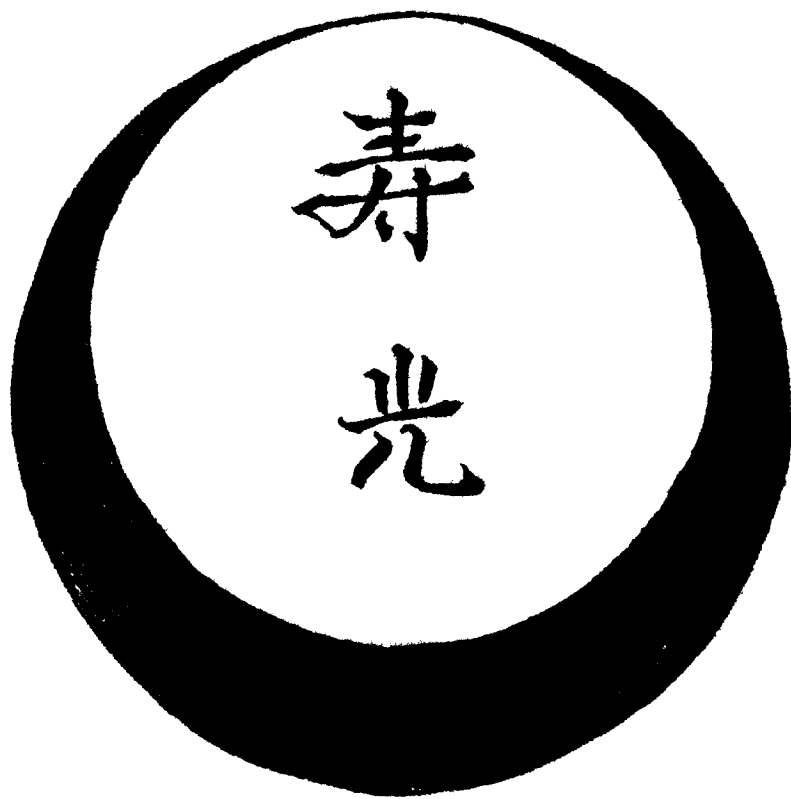


(1)

国字寿光創案

国字速記学塾編

国字速記講座



(1)

国字寿光創案

国字速記学塾編

速記は技術であり身につけることを主とす

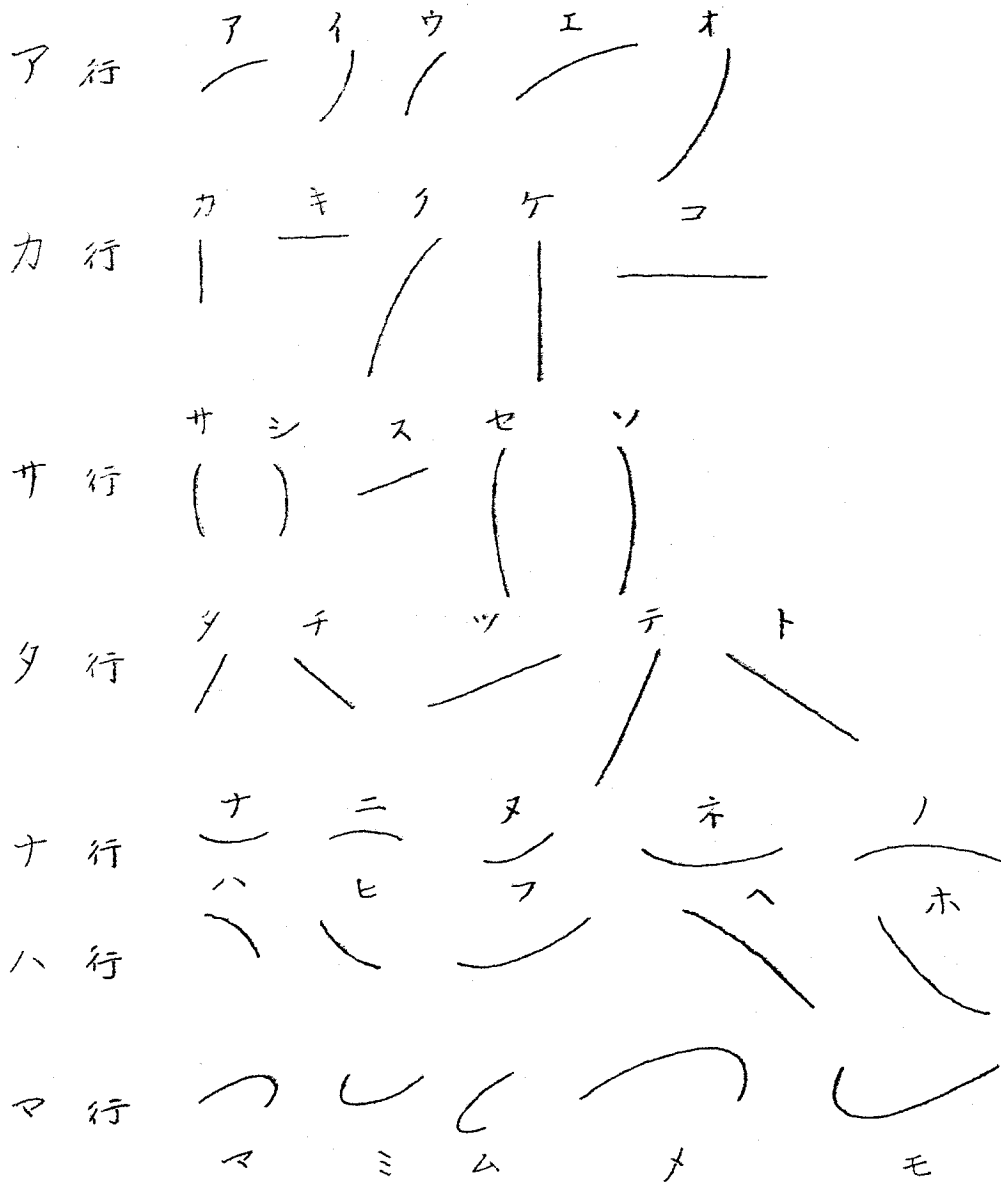
知ることだけでなく覚えることでもなく

頭にかうだに手にしみ込むべきである

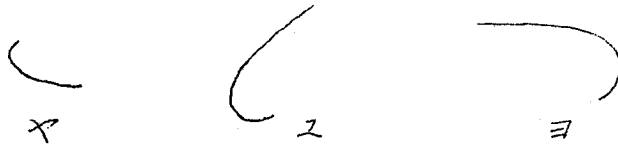
さればまず書くことである

大和文字(基本文字)の構成の鉄則

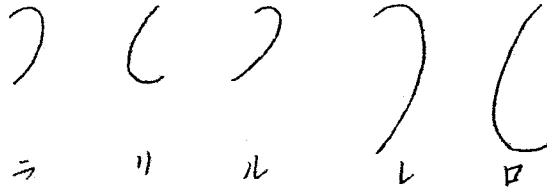
国字速記假名(大和文字)



ヤ行



ラ行



ワ



注. ここでは50音中44字を使用した。濁音字は力を入れてゆつくり書く。

文字の生命を与える3鉄則

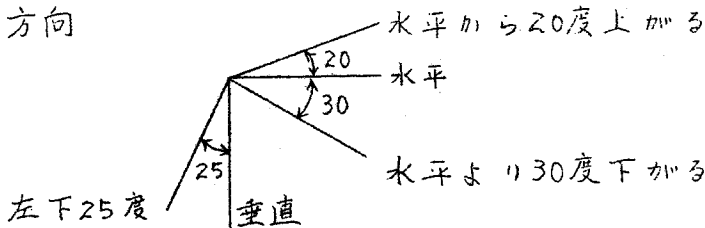
一本の線が相異なつた50の文字となりこれに生命を与えるには

- 1 書く方向 右上。右下。垂直。左下。水平
- 2 形 直。曲(少曲, 多曲)
- 3 長さ 短。長

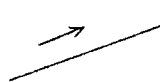
高速度の速記が自由にできるには大和文字(発音と書記運動の一致の理によつて構成)及び簡単に書き得る速記法を使用する。本編においては主として大和文字の完全なる教授に力を注ぎ練習によつて大をなす基礎をつくる。

1 書く方向

5方向



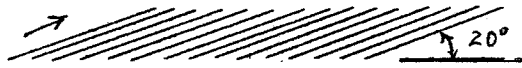
右上の方向



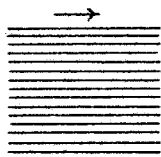
矢印の方向に線を引き分度器ではかつてみて正しければ15本を1回分と

して幾回も練習し確実になれば次に
移り同一の方法で書き5方向を会得
すること。

第一の線は必ずはかってみること



水平の方向



右下の方向

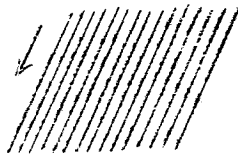


垂直の方向



垂直は水平とともに絶対である。

左下の方向



2 字形

イ. 直字



ロ. 少曲字



ハ. 多曲字



左の3種より成立してある。

3 長さ

短字10ミリ長字20ミリの2種とする。

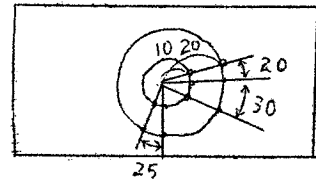
注1. 速記法に使用するときには以上のほかの長さもある。

注2. 文字の原則は1:2の関係を厳守する。

注3. 長字の中央に点を打ち見比べてみて長短をはつきり書けるように修得練習をすること。

注4. セルロイドを使用して右図のように点と線を刻み測字器をつくつて文字の長さや角度の修得に利用すること。

測字器(透明セルロイド)




大和文字の書き方

1 基本動作と清書

以下述べる練習によつて目的の文字を書く基本動作となる。

44字を1字ずつ次の練習をなす。

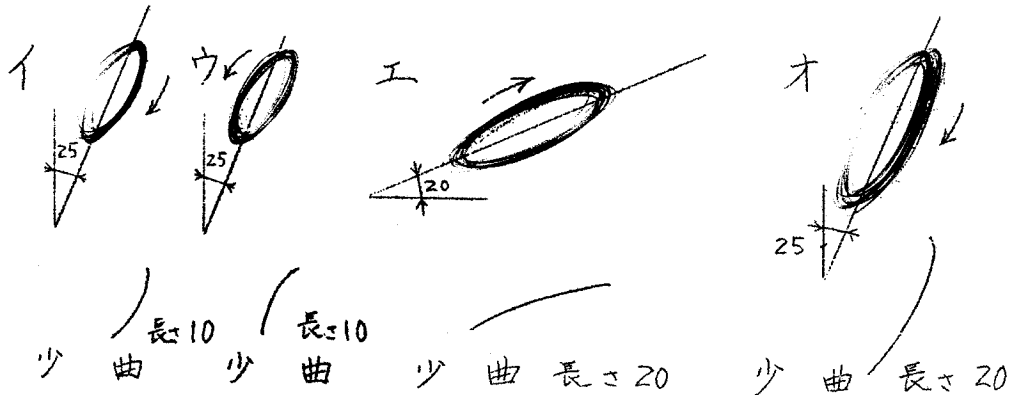
ア行 基本

 アアアアアアアアアアアアアアと発音しつつ手と回す。楕円を右上に向う20度線から切り複線中の基本文字アの字に相当する濃化した部分の上を数回たどり書き増す。

清書

長さ10
少 曲

次にアの字を清書する。1字書くのに5秒くらいかけてよい。

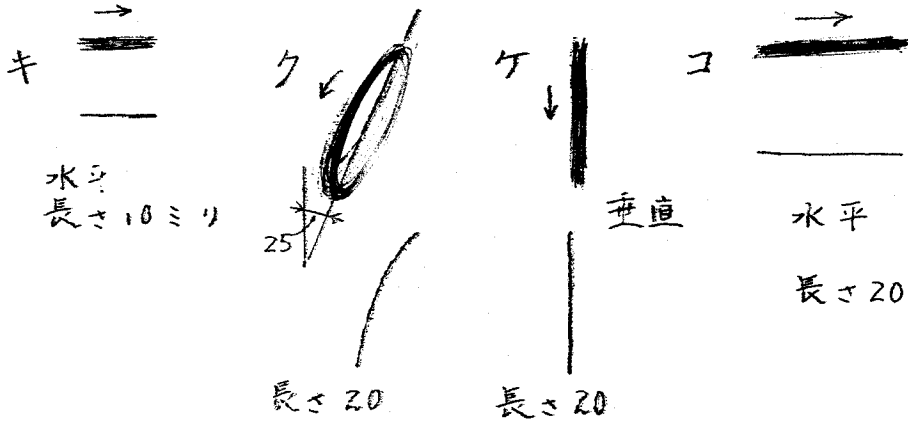


力行 基本

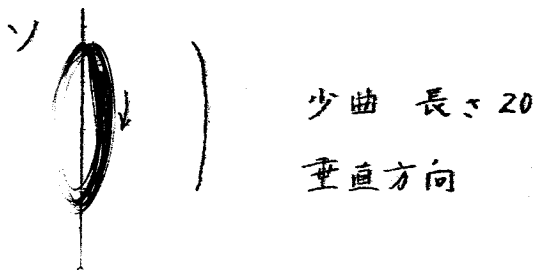
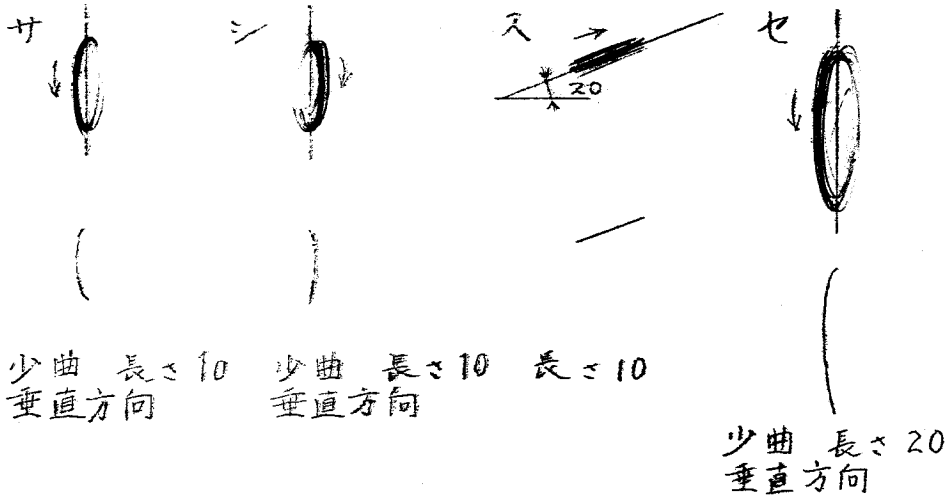
カカカカ・・・・・・と同じところを往復する。

清書

次に力の字を清書する。時間も十分かける。
垂直の方向 長さ10ミリ

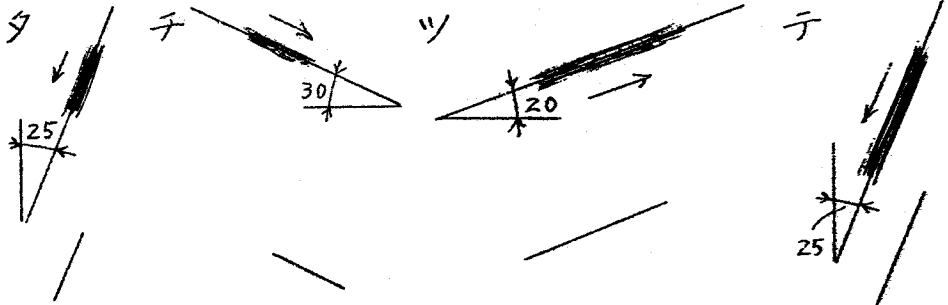


サ行



國字式速記通信教育教材その1

夕行

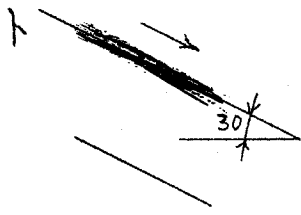


直字
長さ10

直字
長さ10

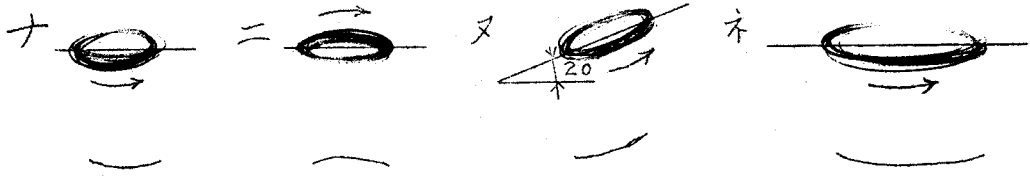
直字
長さ20

直字
長さ20



直字
長さ20

ナ行

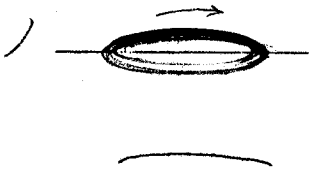


水平方向
少曲
長さ10

水平方向
少曲
長さ10

少曲
長さ10

水平方向
少曲
長さ10



水平方向
少曲
長さ10

八行



少曲
長さ10



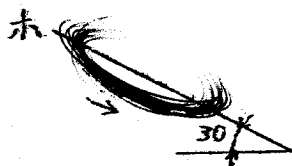
少曲
長さ10



少曲
長さ20



少曲
長さ20



少曲
長さ20

マ行



水平方向
多曲
長さ10



水平方向
多曲
長さ10



多曲
長さ10



水平方向
多曲
長さ20

元



水平方向
多曲
長さ20

ヤ行

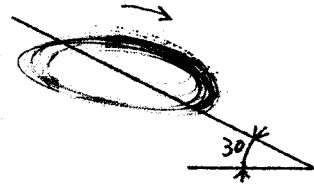


多曲
長さ10



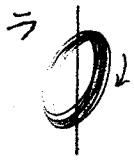
多曲
長さ20

ヨ

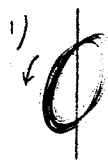


多曲
長さ20

ラ行



垂直方向
多曲
長さ10



垂直方向
多曲
長さ10

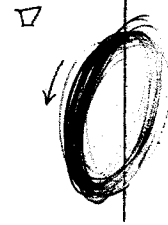


多曲
長さ10

レ

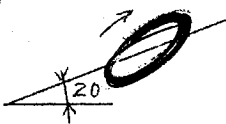


垂直方向
多曲
長さ20



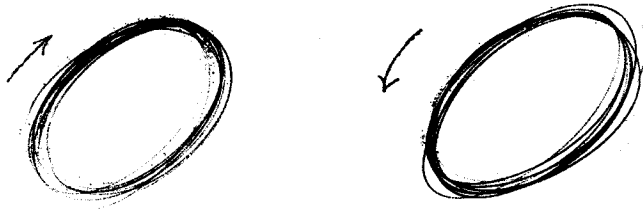
垂直方向
多曲
長さ20

ワ



多曲
長さ10

注1. マ行以下の文字を書くには自然円の練習が最も効果がある。目を閉じて手を回すと上方が右にかたむいた楕円ができる。これが自然円である。大和文字はこの自然円と直線より形つくられています。ゆえに基礎練習の初めに自然円の練習をするとよい。

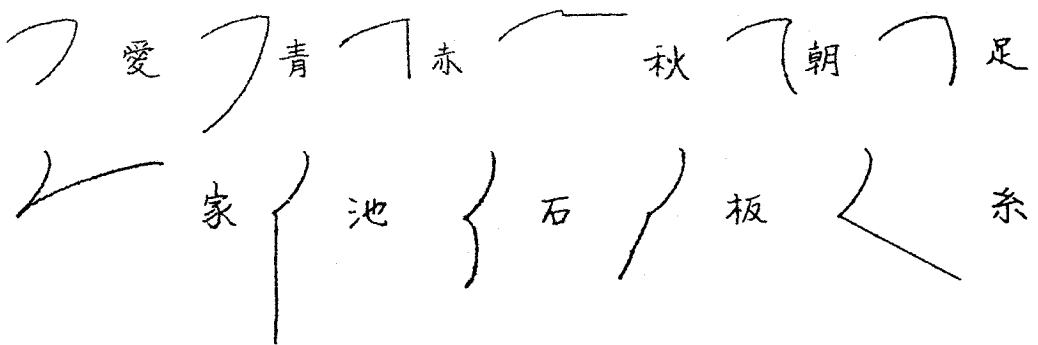


自習前10分間練習するとよい。

注2. 1字を書くとき3鉄則に従って完全に修得し、その後次の字に進むこと。

注3. 大和文字は長さ1:2が基本となっています。高等速記を使用するようになると教種の長さを使用するから基本となる10ミリ対20ミリの関係に注意しこれが確実に書き得るよう練習されたい。

以上によつて清音で構成されている単語は多く書けます。



上例に示すようにアの字イの字を第一字にし他の文字を続けて書けば多くの単語をつくり書くことができます。

国字式速記通信教育教材その1

前例にならつていろいろの単語を書いて練習して下さい。

添削は1週2回を基本としております。この編の修得期間は1ヶ

月を目標といたしておりますから添削回数は8回で終了です。

あなたの御精進をお祈りいたします。

第一編おわり

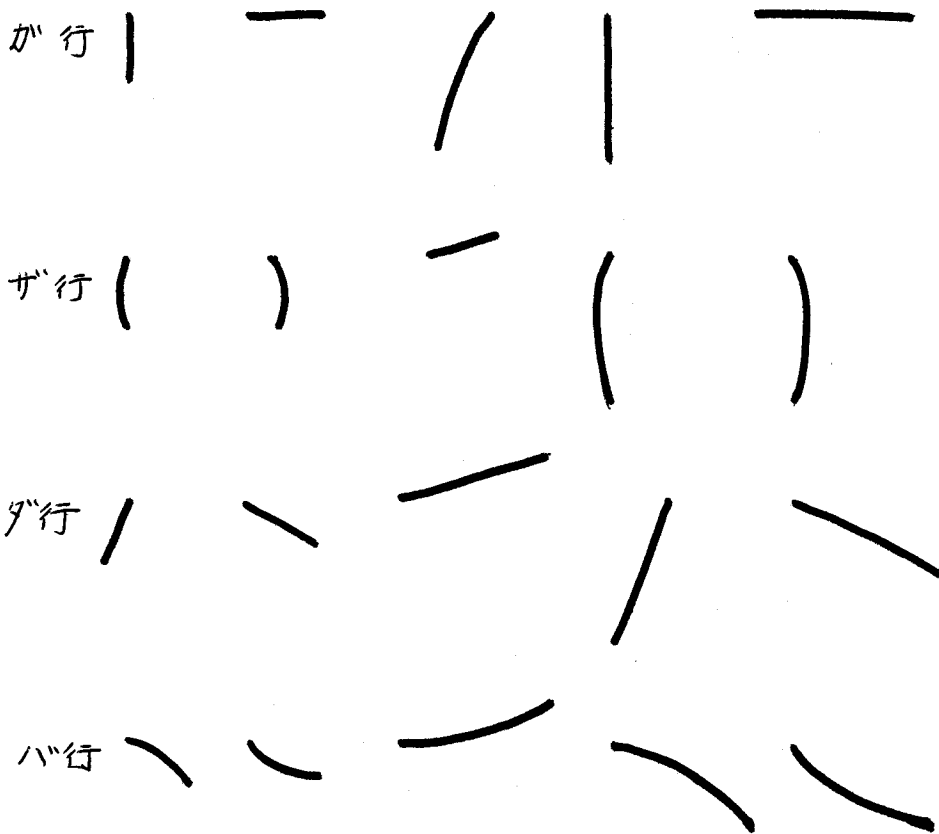
国字速記学塾編

第二章 濁音 及び 半濁音

濁音は清音に対立する名稱であつて耳に聞える感じからつけられた。濁つた 重い 太い 強い 粗い 感じがする音である。

耳に響くこの強い刺激 発音の時の強い発音動作は文字を書く手にまで及び濁音文字を書くとき思わず手に力が入り線が濃くなるべきこの理が濁音文字を生み出したのである。

濁音表



書き方注意

- 1 特に速度を落して徐々を書く
- 2 清音と続くときは濁音字を書いて一度止めしばらく休み全く力をぬい

国字式速記通信教育教材その2

て次の字を書く。

3 第二字目が濁音のときは軽く清音字を書き一度止め力を入れて徐々に濁音字を書く。

最初のうちこの練習をしていないと正しい濁音字は書けない。

清音字に力が入り過ぎるときは自然内の練習を十分すればよい。

例1 濁音字と清音字

疑義 画技 美辞

ギギという字は力を入れてゆっくり書き、わずかに移動して次のギの字を力を入れてゆっくり書く。

例2 清音字と濁音字

器具 異議 知事

幸美 筆 鍋

清音字を書き一度止めて力を入れてゆっくり濁音字を書く

例3 濁音字と清音字

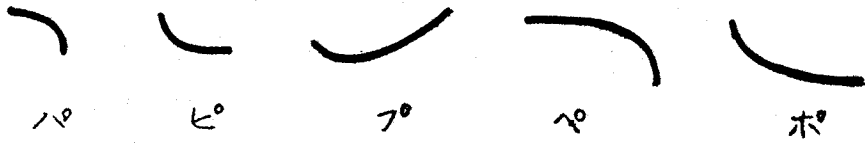
自己 時価 母子

せむ ガム 劇

濁音字を書き一度止めて力を抜いて（指の力の抜けるのを待つて）

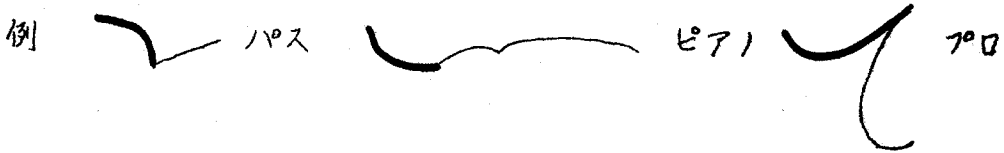
清音字を書く。

半濁音字



濁音字を少し多く曲げ中曲字として書く。

書く要領は濁音字を書く場合と全く同じ



固く持った指の力を抜く方法及び書き方

- 1 濁音文字を書き終つて一度筆を止め次の清音字を書く、その前に紙に強く押しつけてある。この力を抜く方法であるか
 - a. 休んである時、固く握つた指の力を抜き軽くする方法で力が抜けるまで次の字を書かない。これは初歩の人により。
 - b. 少し進まないとおつかしいが筆を持ち上げるような気持ちで力を抜く。
 - c. きれないと少しおつめしいが、次の字を書く動きを利用して力を抜くのであるか。この方法は最も優れた方法である。
- 2 濁音文字を書いて一度止めたとき筆は紙につけたまま筆を持ってある指の力を抜くのである。この方法は静かに指を開くようにして筆を軽く持ち清音文字を書く
- 3 濁音文字を書いて一度止めにちよつと筆を紙から持ち上げて指の力を抜きまた軽く紙につけて書く。この2,3の書き方は濁音文字の軽く書く。この書き分けの可能を知るにはよい方法であるか 力を入れて書くことと清音文字の正式に書くときの方法としてはこれを用いなりほうがよい。

従来力の抜き入れを急速にせねばならぬということのなりかなや漢字

国字式速記通信教育教材その2

で書いていたため文字を書くとき急速なる力の抜き入れが自由にならず なれない文字を書くため緊張し指先に力がかはり過ぎ どの字も濁音文字のように力がかはり勝ちのものである。

特に注意を要することは濁音文字と清音文字の書き分けは初めのうちにできるように慣れておかなければならぬことである。

これができないまま他の練習が進むときは これが書き分けか きないものである。

軽く書く練習

軽く鉛筆を持ち目を閉じ(あるいは目を開いたまま)で一分間180回乃至240回手を廻し自然円を書く。

このようにすれば書く力が平均し軽くも書け 力を入れたも書ける基礎練習として常に実行するとよい。

この練習は完成後の速記者も 速記文字を書く前には常に実行してある。

第三章 段位の話

段位のきめ方

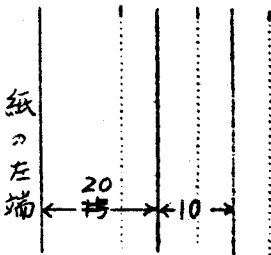
国字速記^法は天上中下地の五段をきめることによつて速記^法の基本とし
あらゆる表現をすることが出来ます。

たとえば天段に書けば撥音、上段に書けば拗音、下段に書けばラ行省略
地段に書けば長音となります。

わか国字式が他の諸式よりも一歩進んでゐるのは、この段位の法則の發
見に負うところ大であります。

1 第一字目の段位のきめ方

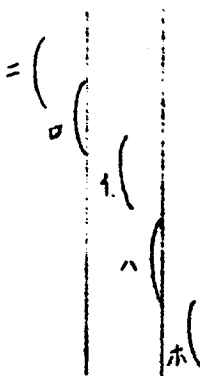
下図のように原文用紙(サイズB5、書道半紙の半切)の左端から²⁰横ミ
ニロイハホ
天上中下地
リ³⁰ミリのニロ所に縦に折り目を2本つける。



この2本の線を第一字目すなはち書き始めの段位
をきめる基本とする。つまり各行の第一字を書
き始めの場所とします。

- イ 中段 線と線の間
- ロ 上段 左の線上
- ハ 下段 右の線上
- ニ 天段 左線より5ミリ左
- ホ 地段 右線より5ミリ右

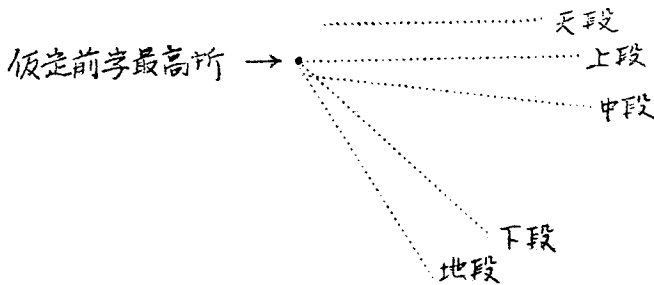
例



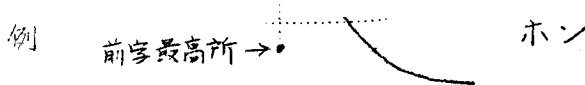
- イ サ 中段
- ロ シヤ 上段 拗音
- ハ サル 下段 ラ行省略
- ニ サン 天段 撥音
- ホ サー 地段 長音

2. 前字段法

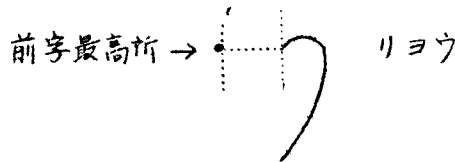
各行の二字目からの段位をきめる法則があります。



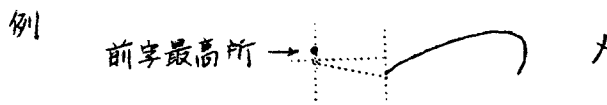
天段 前字最高所より5ミリ高いところより書き始める。空間10ミリ



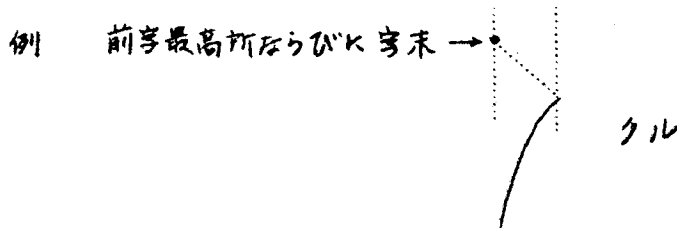
上段 前字最高所より右水平線上、空間10ミリのところより書き始める。 例



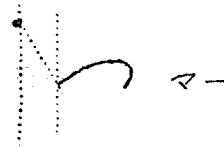
中段 前字最高所より2ミリ下がって右下に向う10度線と空間10ミリの交点より書き始める。



下段 前字最高所より右下45度線と前字末より右方10ミリの空間の位置との交点より書き始める。

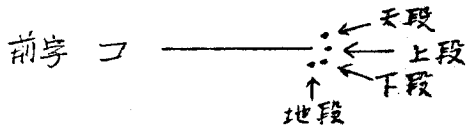


地段 前字最高所より右下60度線と前字末より右方5ミリの空間の位置との交点より書き始める。

例 前字最高所ならびに字末 → 


3. 字末段法

字末段のときは空間は2ないし3ミリとする。

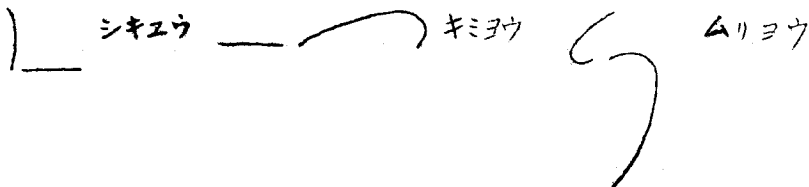


段位	端 所	水平より	空間
天段	字末より高く	上30度	2.3ミリ
上段	字末と水平	水平	2.3ミリ
中段	字末に続ける	—————	—————
下段	字末より右下	下45度	2.3ミリ
地段	字末の直下	直下	2.3ミリ

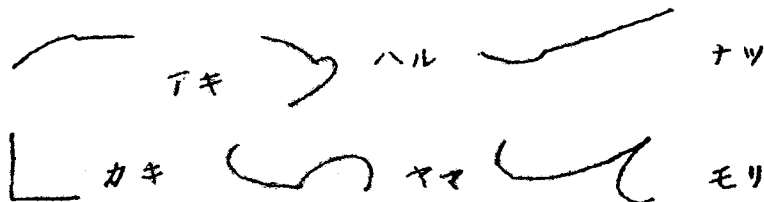
例 天段



上段

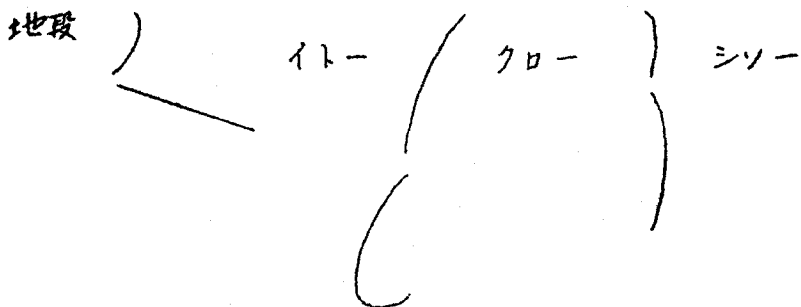


中段



国字速記通信教育その2

下段 別項にて説明



以上で段位のきめ方の大要をご説明いたしました。

今後は例文により練習して下さい。

これから出てまいります 撥音、拗音、長音はすべてこの段法によつてい
ます。

第四章 撥音 (ン)

耳に響く感じが はね上がるようなのでこの名稱があり 両唇または歯音をもつて口から出る息と小さいで鼻から声を出すので鼻声ともいつている。撥音は独立しては使用することなく必ず他の音の末尾につけるものであります。

例 宣言 センゲン 鑛西 チンゼイ 民兵 ミンペイ
翻案 ホンアン 憲法 ケンポウ 連合 レンゴウ

鼻音のものに關係ある發音は ン のみではなく ナニヌネノマミムメモの音もある。ちなみに鼻から全く息を出さずに發音してみるとナ行マ行は音が變つてまゐります。

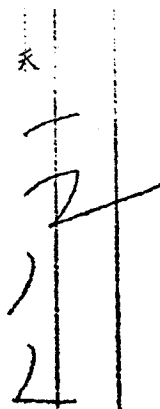
全く口を用いず鼻のみによるものは ン のみであります。

ン のつく語はわれわれが日常よく使用する發音であつて二音以上すなわち ン の前に他の發音のあるものよりなつてゐる39132語中 ン のつてゐるものは7316であつて一割八分強であり、いかによく使用されてゐるかがわかります。

アンインウンのようにはねる發音であつて速記文字は天段に書きます。天段の書き方には二種あつて一つは前字天段もう一つは字末天段です。

1. 前字天段の書き方

第一序目に ン のついたときは左記のように左線よりちゞり左に書く。



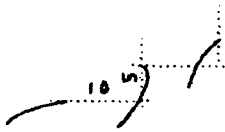
アン
安逸
イン
陰氣

第二字目以下の書き方

前の字の右の端から右へ10ミリのところから書く。

前の字の一番高いところから約5ミリ高いところから書く。

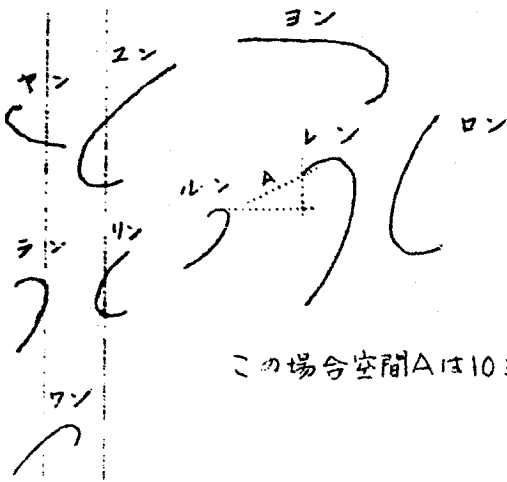
つまり前字末より右へ空間10ミリ上へ5ミリのところから書き始める。



左記りように書く

ア ン イ ン ウ ン

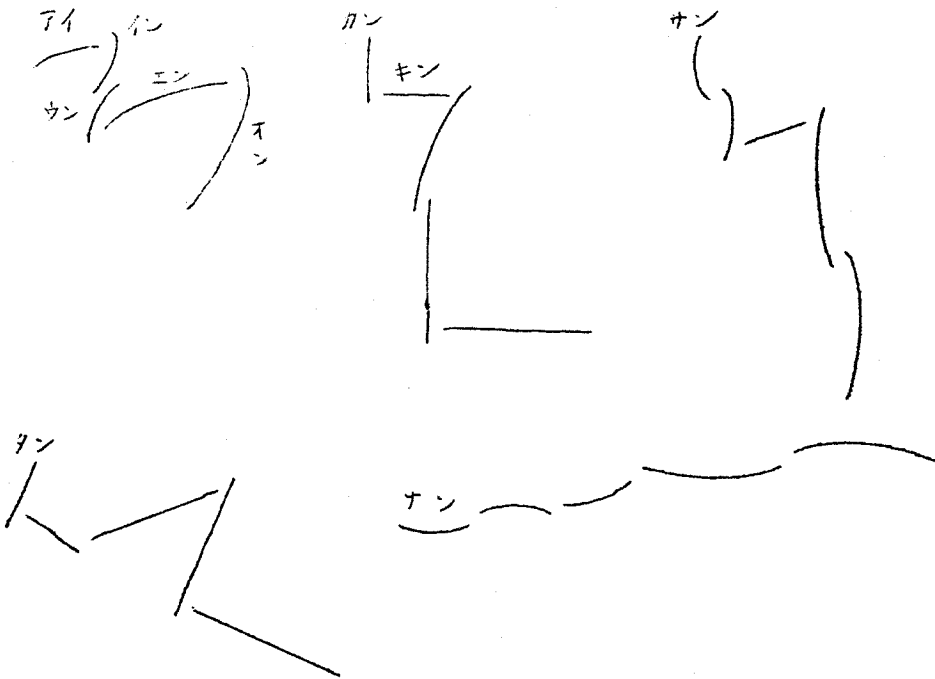
ン の 練習



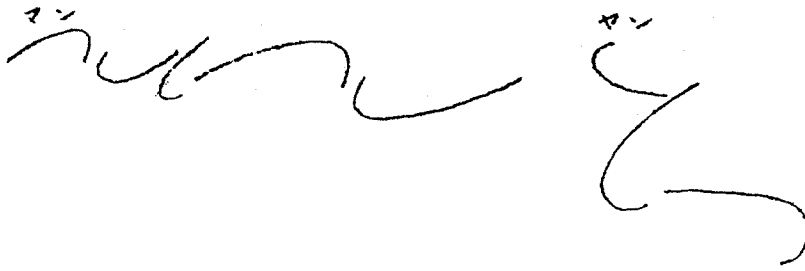
この場合空間Aは10ミリ以上となる。

2. 字不天段の書き方

第一字の字尻の右上より書く。空間は2ないし3ミリとします。



国字式速記通信教育教材その2



注、右上の方向は30度を理想とします。

空欄5ミリはゾーンの合わせ省略となりますから空欄を完全にすることが注意して下さい。

例

違憲	禍根	危険	苦悶
安閑	香港	移民	理論
尊嚴			

以上がほか無数にありますからいろいろな単語によつてできるだけたくさん練習して下さい。

第五章 促音 (ツ) 略号(空間)

促音とは ある音の末尾を 突然押え止めるため生ずる音であります。

一つの音とはいはいにくいが 音と同様の価値があるから 音の一種であります。

しかも他の音のように 別に はつきり発音しませんから 速記文字は特殊の書き方をします。

註 第二音目がク又はツであり第三音目がカサタバにあたる
とき多くの場合クまたはツは促音に変わり 詰った音になります。

従来片カナ 平カナでは小さくツの字を書いてあらわしておりましたが 速記文字では いままでクまたはツを書いてきたものを 文字と文字の間を少し空けておくことによつてクまたはツを書かずに書いたと同じように読むものであります。

促音略号 国家 速記 筆記 達見などのようにクまたはツが詰つて促音となつたときは特殊の書き方によつて書かずに読める書き方であります。これを促音略号といいます。

例 別科 烈婦 活版 実験 墨痕 国家 發揮 逸品 貞淑

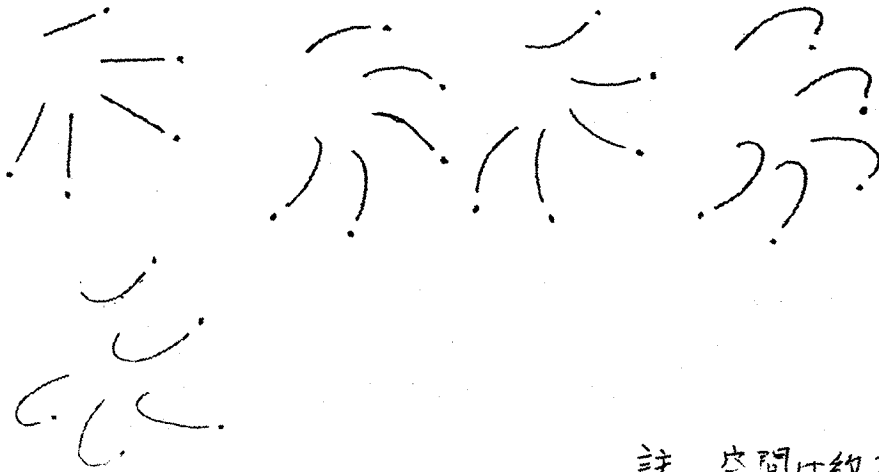
ヾの書き方についての注意

文字と文字との間を空けることによつてヾの字は省略することかできますが この空間のつくり方について注意をしなければならぬことは前 後字の位置の関係であります。

すなわち前字の書き終わりと 後字の書き始めの位置であります。前字を長く引けば 次の字の書き始めにくるという位置から次の文字を書くのであります。この後字を書く位置は絶対でありまして これを書き方の鉄則とします。

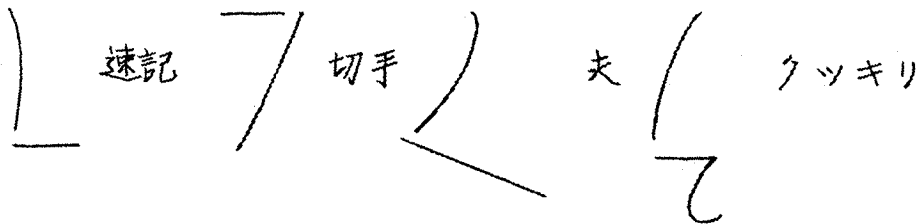
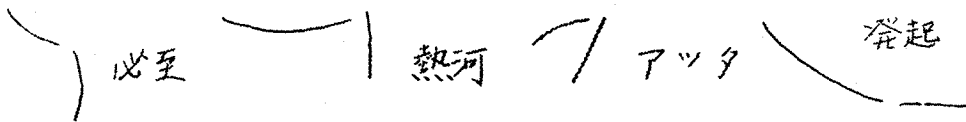
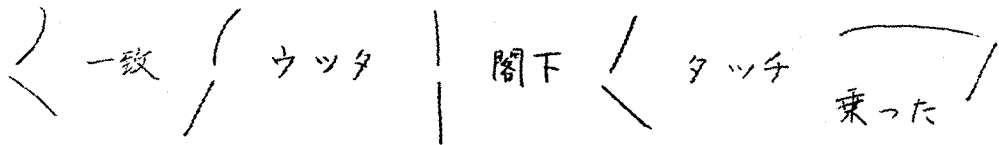
直線字の場合は比較的わかり易いのですが 実際教育してみると 囲裏というとき力の字をコの字より下に書く人が多く 速記の場合は右のほうへ次の字を書く場合が多いのです。曲線字中 特に多曲線の字は ここまでくるという位置が目測しがたいときがないでもありませんが 少し注意すれば すぐに目測し得るようになります。また前の字の書き方が悪くて次の字が書けない場合 たとえばフの字の書き終わりが たくさん曲つて 上に向いておるとフッテの時などテの字を書けばフの字の書き終わりと交叉するような場合がありますので前後の文字を正しく書くように注意をして練習をして下さい。

前後字の関係 (後字を書く位置)



註 空間は約2ミリ


書き方の鉄則たる 二音字目の書き始めに注意しなから次の例と書き練習して下さり。



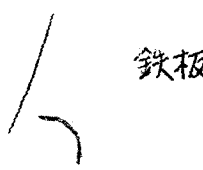

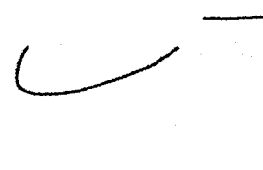
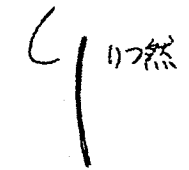
次に促音ではなくツ音の場合も同様に書くか普通のツのとき

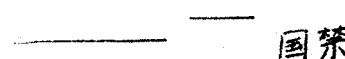

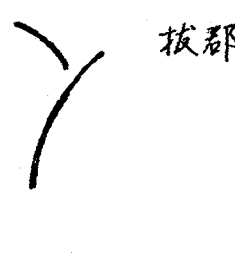
国字式速記通信教育教材その2

は促音のツのときよりも空間を少し広くしてもよい。

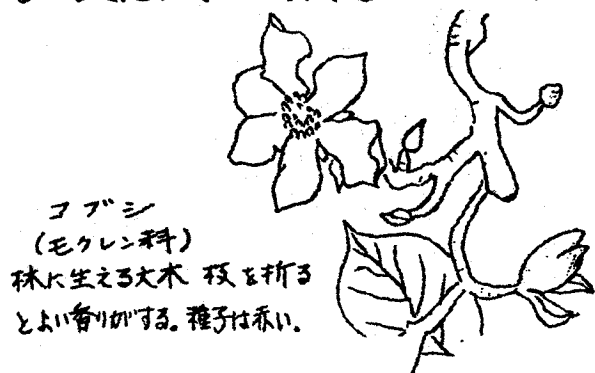
例  ツツム  熱意  ミツメル

撥音と促音(ツ)音が一緒になったときには空間を4分の1と5ミリとします。但し二音字目の書き始めの位置は撥音の場合と同様であります。空間距離のみ違います。

 鉄板  鉄ピン  木琴  りつ然

 国策  決戦  抜郡

註 前後の文字の関係で 撥音と同一の形になることもあります。たとえばツツムがツムン ネツイがネインのようにも読めるけれども 文意によつて間違ふものではありません。



第六章 長音

長音はその名の示すように 長い発音であって 発声の第一音をそのまま 長くしたもののよう感じられる発音であります。

長音を二種として、まず そのうちの一つの説明を行います。

1 漢語系の長音

(クー / スー / ツー / フー / ユー / オー
 - ュー) ソー / トー / ノー / ホー / モー
 つヨー / ロー

上記のように漢語系の長音はスーの字以外は すべて5ミリ字であって中段を使用する。なおスーの字は 右上30度ないし35度として20度のスの字と区別します。

例 \swarrow 空気 \nearrow 数字 \dashv 通勤 $\left\{ \begin{array}{l} \text{凡船} \\ \text{走破} \end{array} \right.$
 \swarrow 勇氣 $\left\{ \begin{array}{l} \text{往診} \\ \text{濃霧} \end{array} \right.$ \dashv 公民 $\left\{ \begin{array}{l} \text{走破} \\ \text{毛頭} \end{array} \right.$
 \swarrow 騰貴 \nearrow 濃霧 \dashv 方向 \swarrow 毛頭

2. その他の長音

前述の5ミリ長音とスー以外は 基本文字のままに地段
を使用します。

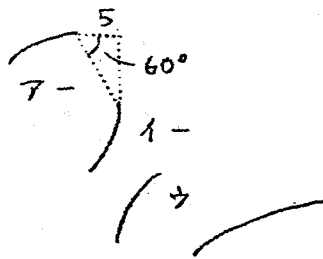
長音は漢字系統には ㄣ段の アスツフエ オ段の オコ
ソトノホモヨロのほかにたりか 外来語のときは、すべ
てを使用します。

1. 第一音目の長音

書き始めの第一字目になる場合と 熟語または単語の第一
字目にくる場合における書き方があります。

第一音目の長音(前字地段)の基本練習

天上中下地
段段段段段
|
|
|



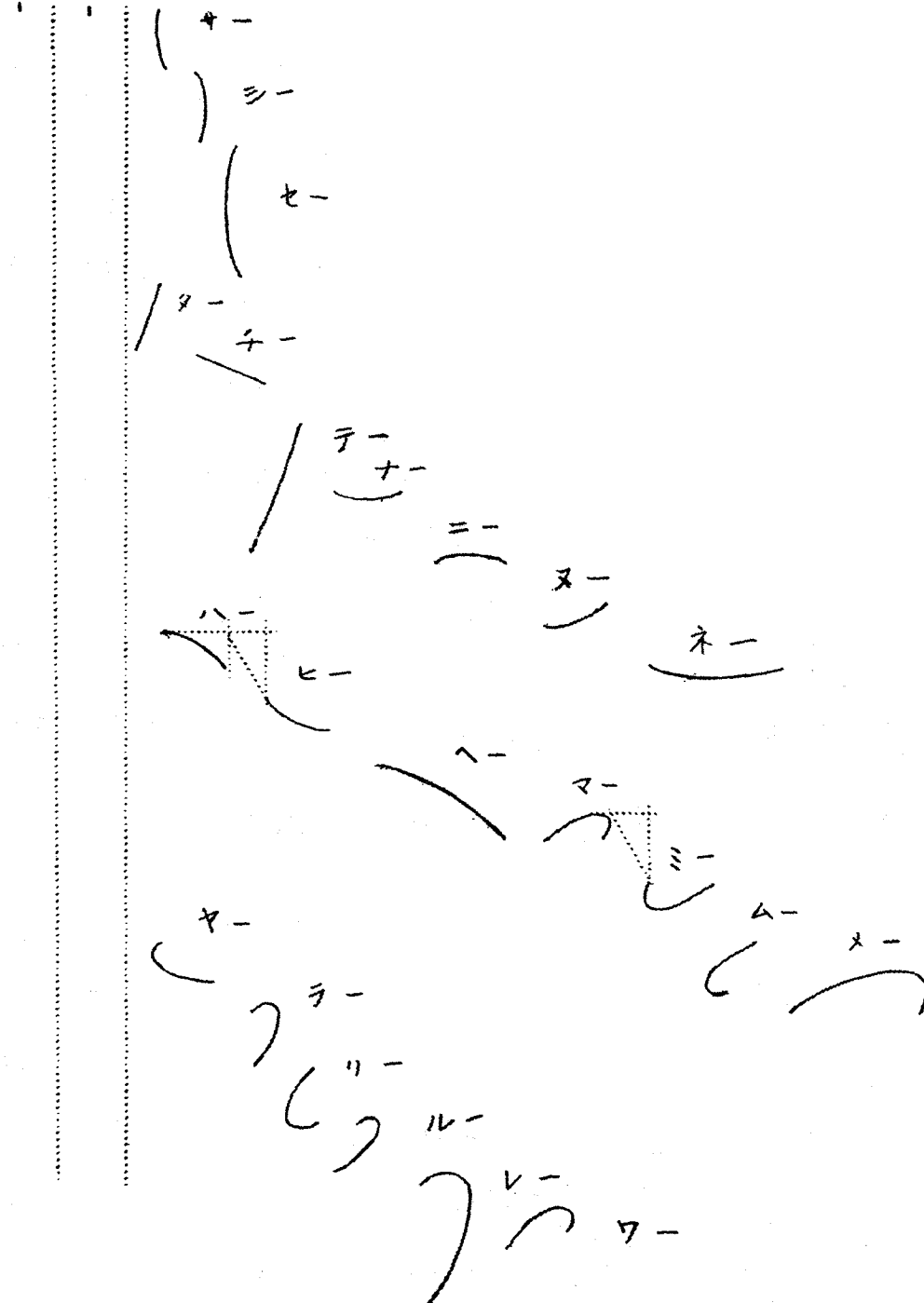
ア-以外のイ- ウ- エ-
のよりに行間に出てくる 語
の第一音目が長音の場合は
エ- 前字末より右に5ミリ

カー 右下に60度の
位置より書き

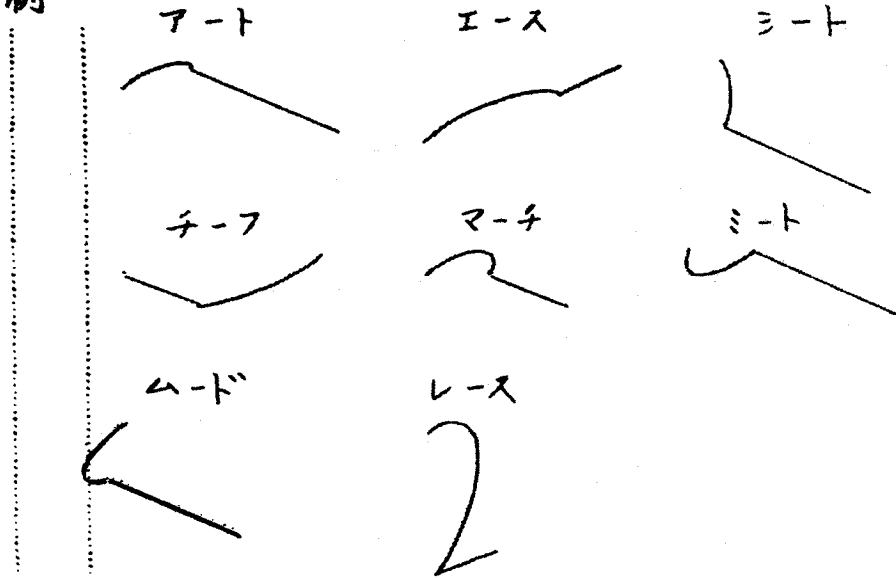
ケ- 始める。

ア-のよりに右行の最初に
くる長音は基本線より右
5ミリの位置より書き始
める。

天上 中下地



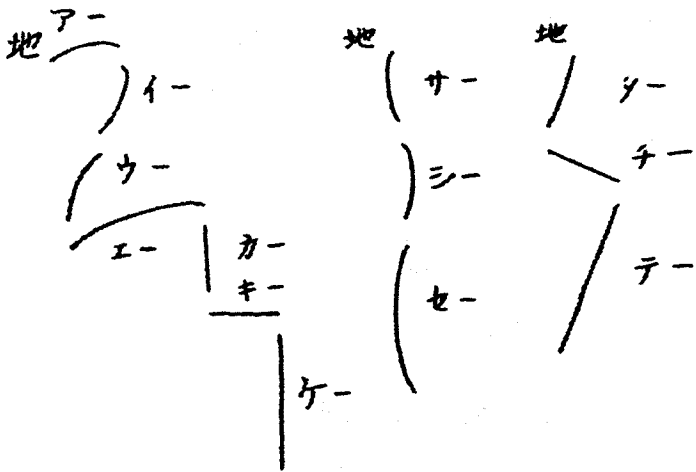
例

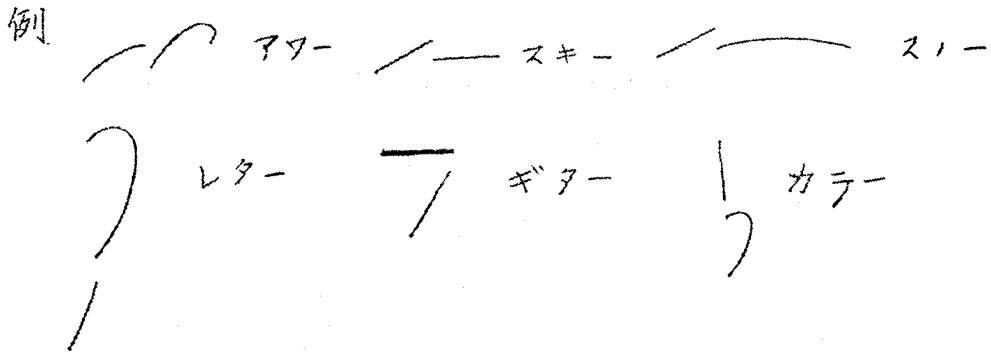
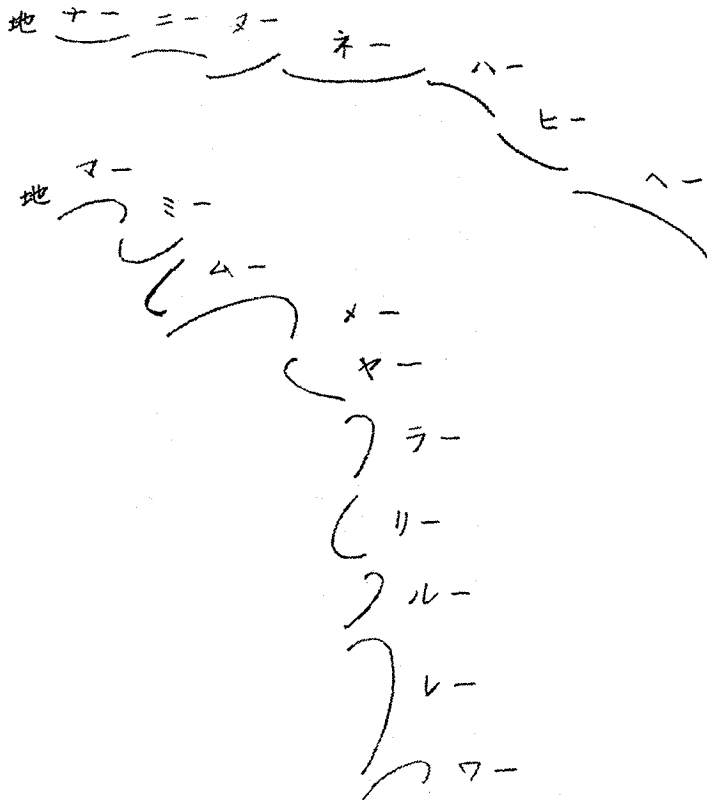


ロ. 第二音目以下の長音

ラリーメのような書き方であつてラの字末の直下、空間は2ないし3ミリの位置より長音ラリーを書き始める。

第二音目以下の長音(字末地段)の基本練習





3. 漢語系の長音と その他の長音の併用

イ. 第一音目が漢語系、第二音目がその他の長音の場合

中、トキーのようにトは漢語系長音なので中段に書き、その真下2~3ミリの空間を明けてキの字を書く。

国字式速記通信教育教材その2

例

ホバー ゴーカー ナーワーク

ポーカー

ロ. 第一音目が漢語系以外の長音、第二音目が漢語系長音の場合

地 } ヒーローのようにヒ-は漢語系以外なので地段に書き、その字末に続けてローを書く。

4. 促音と長音

学校(かっコー)のようにかの無形延長線上空間2ミリの位置よりコーの字を書く。

例

滑走 熱湯 力行 密航

滅法 モットー 日教

発行 日報 突凡

第七章 拗音

拗音は直音（アイウエオ、…等の清音）と異り拗れ曲った感じのする音であるので直音に代えて、この名称があります。皆さんはすでに基礎五十音字は正確に書き得るのでありますから基礎文字と全く同一であって、ただ書く位置（上段）によって拗音を表現することかできます。

よって拗音文字を書くにあたっては、その位置（上段）について特に注意し正確なる拗音文字がかけるように努力をして下さい。

拗音は、日本人の言語中非常によく発音されるものでありますので上段に正確に、かつ自由に速記文字を書き得るようになるれば書速は速み速記能率は著しく増進します。

例えば キョウ ショウ のように、これを漢字で書く時は響は二十二画 証は十二画であり、假名で書いてもなを三字九画になるのであります。しかも速記文字では、いずれも一字一画で書き得るのでありますから、この簡単な文字と段の理も十分理解して、活用の自由と期するよう練習をして下さい。

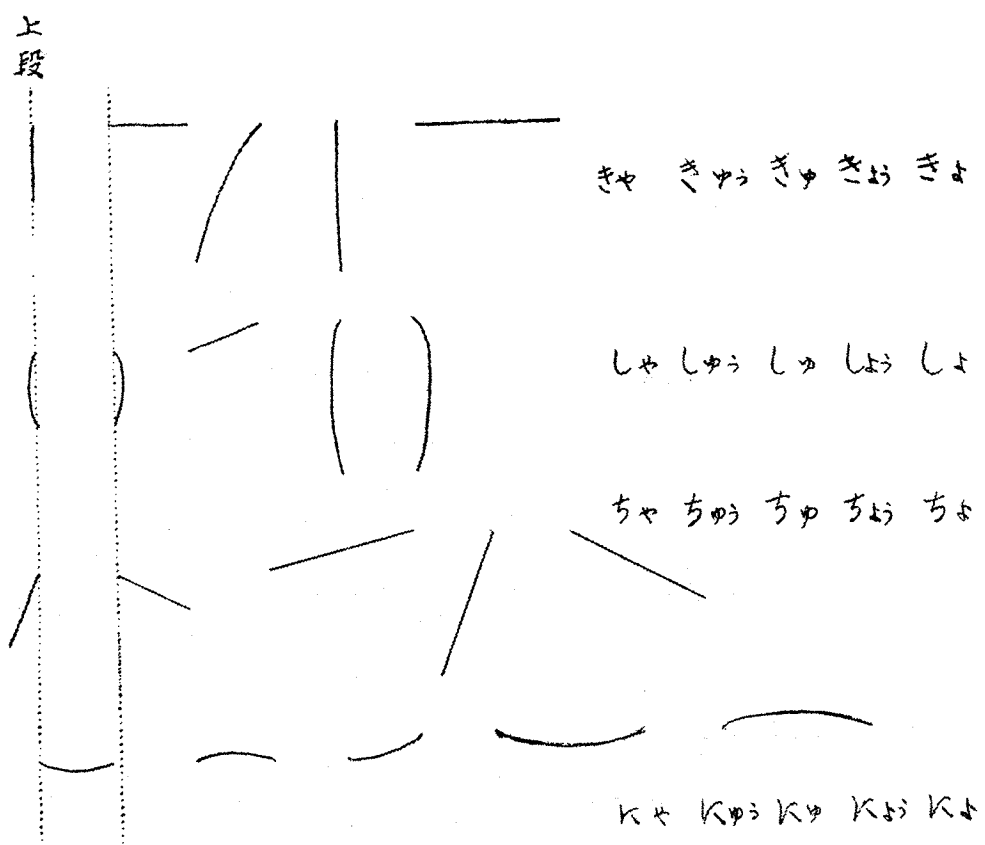
1. 拗音 文字の書きか

速記文字（基礎文字）を上段に書けば拗音となります。

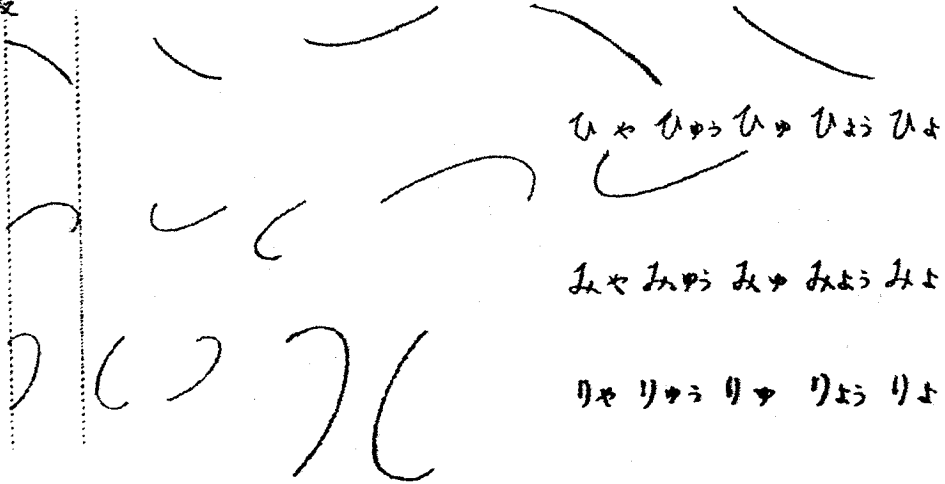
拗音表

きゃ	きゅ	きょ	きょう	きよ
しゃ	しゅ	しょ	しょう	しよ
ちゃ	ちゅ	ちょ	ちょう	ちよ
にゃ	にゅ	にょ	にょう	によ
ひゃ	ひゅ	ひょ	ひょう	ひよ
みゃ	みゅ	みょ	みょう	みよ
りゃ	りゅ	りょ	りょう	りよ

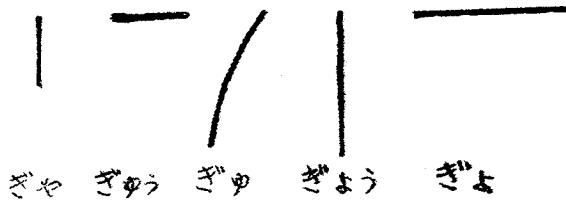
速記文字は



上段



註 濁拗音のときには濁音字で書きます。

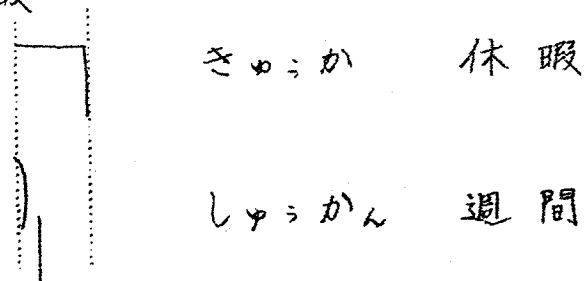


拗音における上段の使用については 前々上段と孝末上段の二種があります。

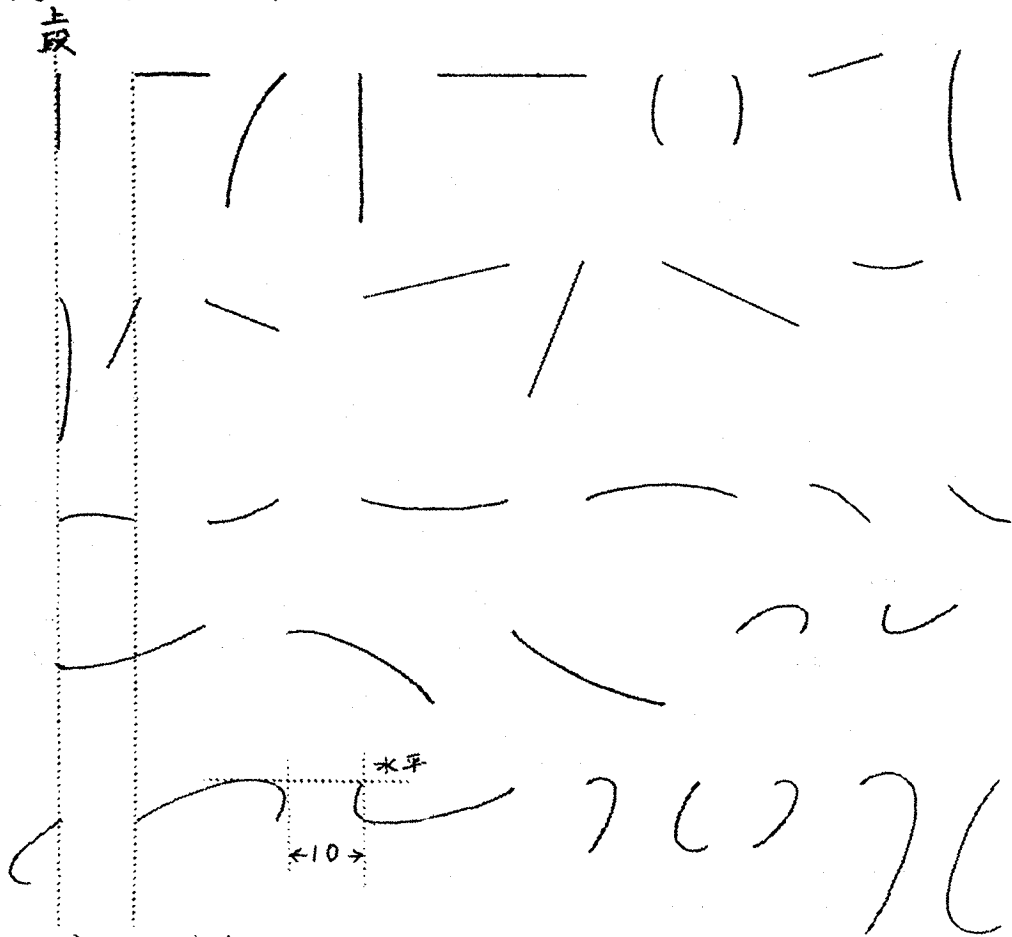
1. 前々上段

第一字目のときは基本線の上段線より書く。

上段

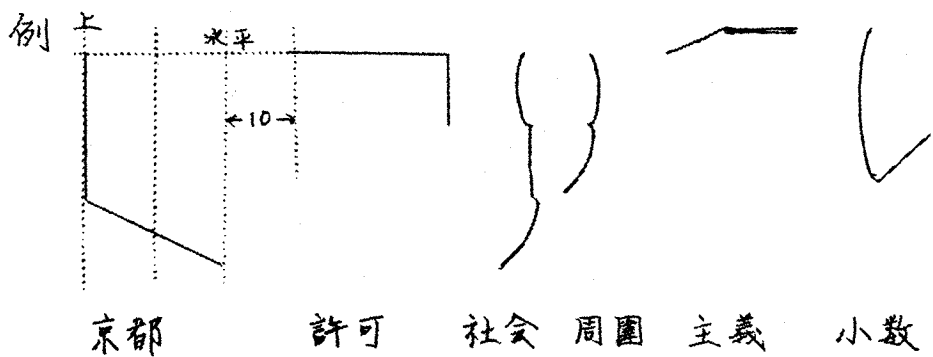


前字上段の基本練習



高さは前字最高桁と同じ高さとなります。

文字間の空間は前字の右端より10ミリ



京都

許可

社会 周围

主義

小数

初 夏 中心 調印 調和 著名 入用

表紙 留意 良好 領地

2. 字末上段

以上

技量のような場合の書き方であって
 字末より右水平、空間は2ないし3
 ミリの位置より書き始める。

字末上段の基本練習

国字式速記通信教育教材その2

ㄎや ㄎやう ㄎや ㄎやう ㄎよ
 ㄎや ㄎやう ㄎや ㄎやう ㄎよ
 ㄎや ㄎやう ㄎや ㄎやう ㄎよ
 ㄎや ㄎやう ㄎや ㄎやう ㄎよ
 ㄎや ㄎやう ㄎや ㄎやう ㄎよ

みや みやう みや みやう みよ
 みや みやう みや みやう みよ
 みや みやう みや みやう みよ
 みや みやう みや みやう みよ
 みや みやう みや みやう みよ

創

創 創 創 創 創 創 創
 創 創 創 創 創 創 創

異境 地主 支所 火中 思潮 加入 慰留

考慮 選挙 緩急 支給 部長

3. 拗音と撥音

1. 拗音に撥音ンがついたときには その拗音文字の字末をハネる。

例 — シェン | キャン (シャン

2. 拗音文字の字末に小円をつける。(後に他の文字が続くとき)

瞬時 し キャンプ (上海 シャンハ

以上の例に示したのは、ごく基本的な一部の例でありますから、今後は実際にいろいろの文を書いてみて、ハネと小円を適宜に使ひ、習熟して下さい。

文の書き方

速記文字で文章を書くときは

1. 一字一字の段を はっきりする。
2. 文字と文字の間隔を確実にする。

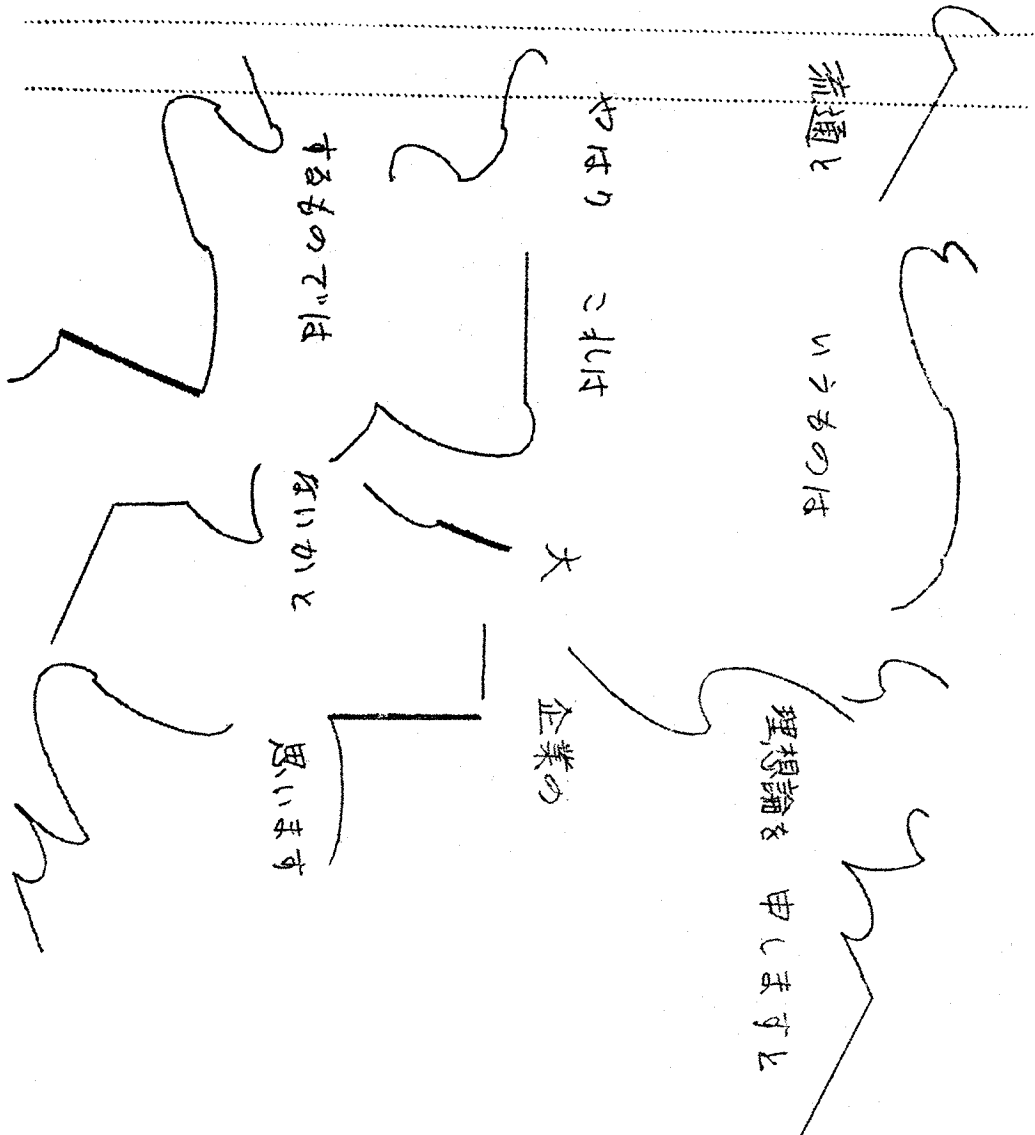
以上は初歩の間に確実に身につけてはなりません。

これまでの習得によって いかなる言葉も文章も 発言どおりに速記文字で書けます。しかも速記に最も必要な基礎でありますから 考えなくても自由に書け 書いた文字の正確度が高くなるまで練習して下さい。

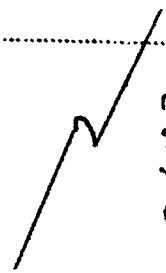
国字式速記通信教育教材その2

次に練習として拗音までを使用して書いてみました。他にもいろいろな文章を書いてできるだけたくさん練習して下さい。

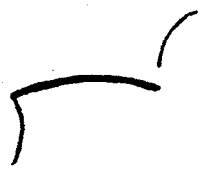
なお いまのところは速度は考えず ゆっくりと正確に書くことが必要です。



ヒウラヒ



非常に



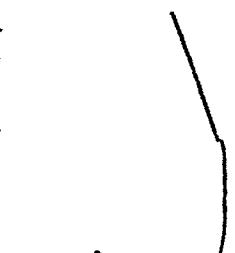
風



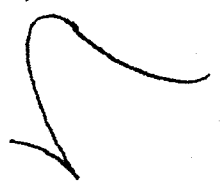
当たりか



狭いヒ

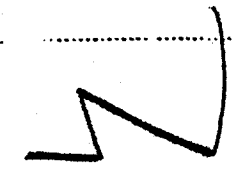


思ラ

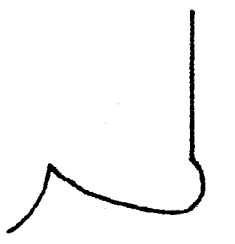


5

のチチカハ



ニ礼ハ



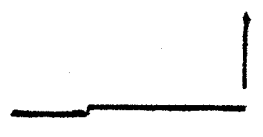
金融カ



チヨウヒ



大企業が



するのと



同じで



ニシヤイマス

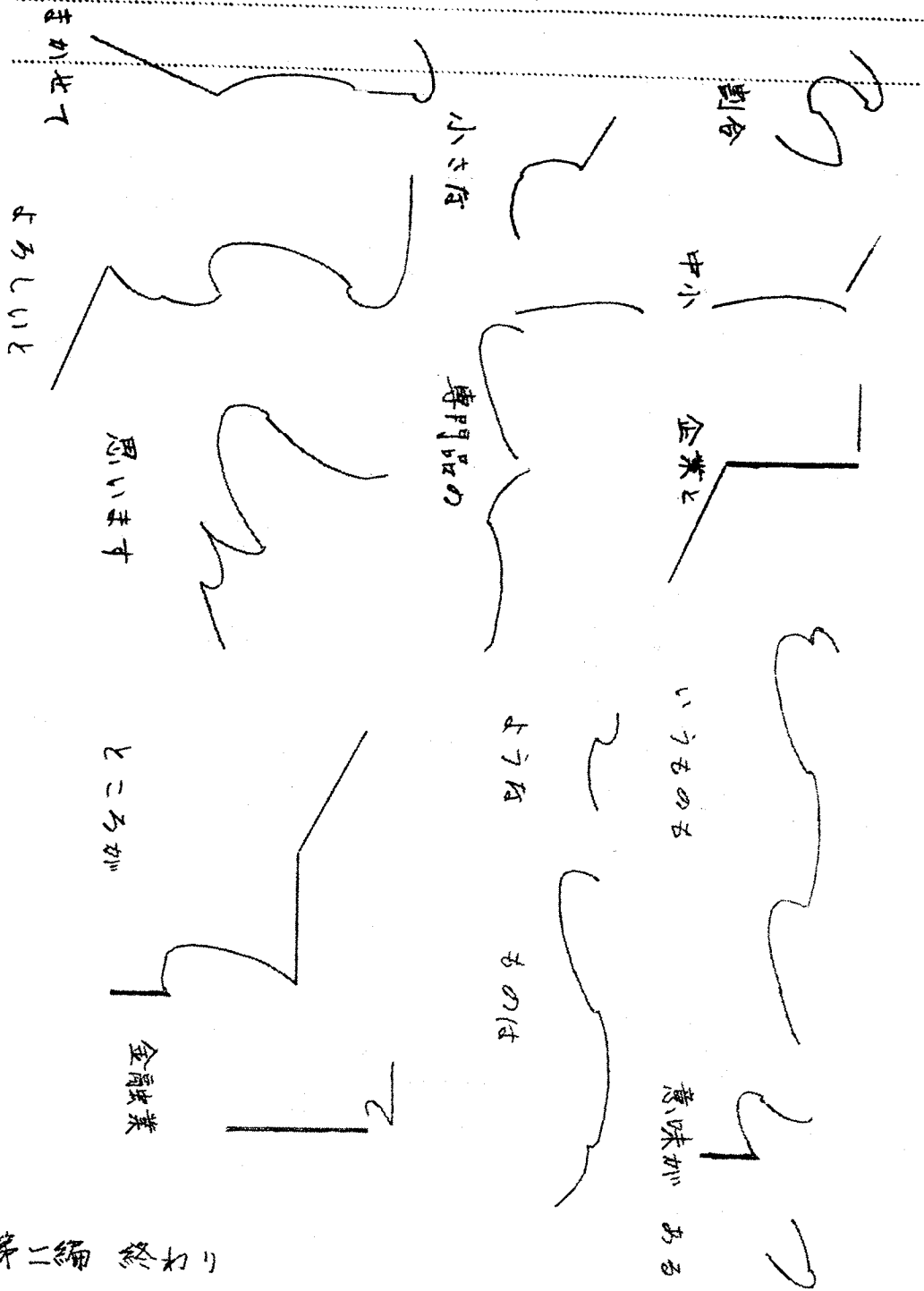


生産の



場合は





第二編 終わり